

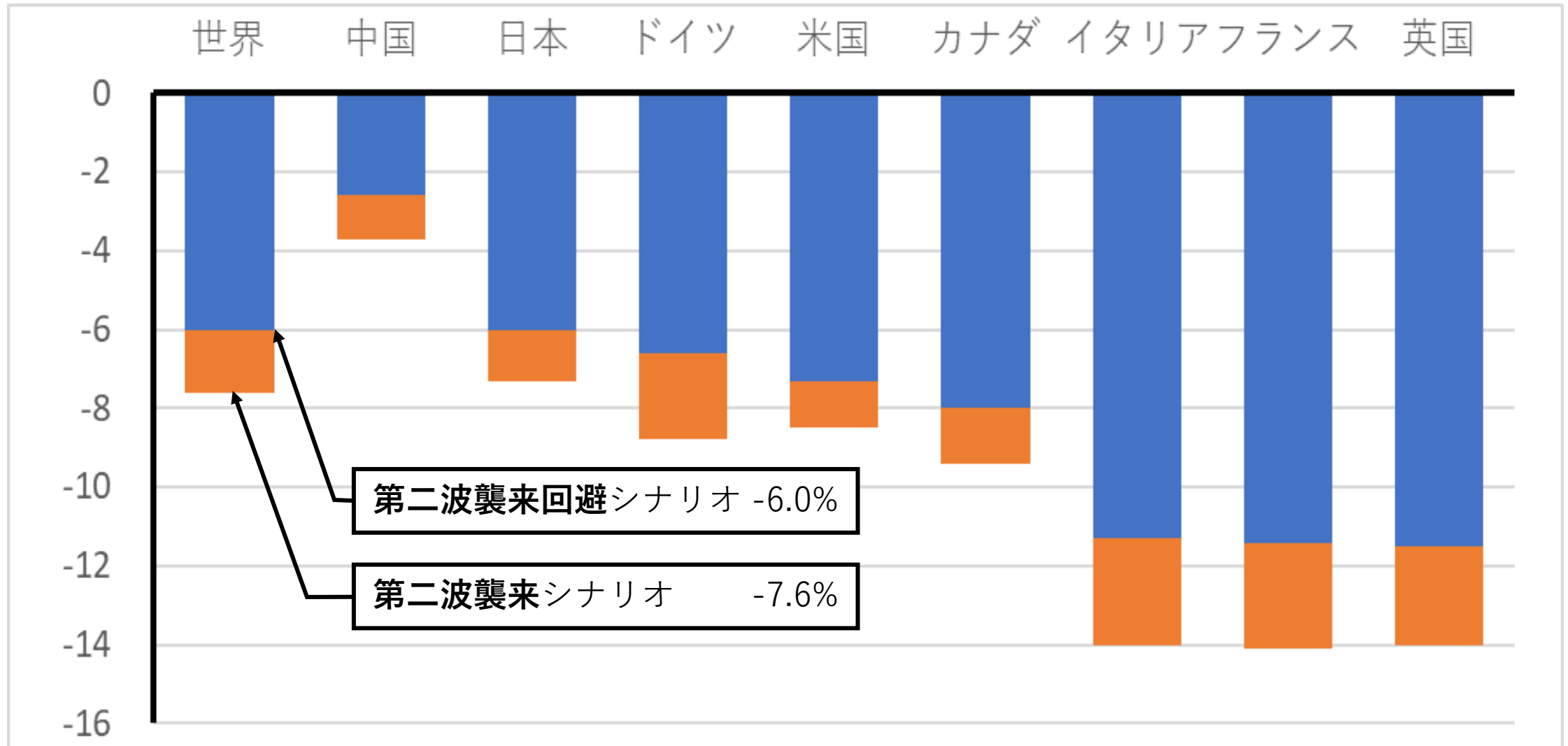
NICT特別オープンシンポジウム 「アフターコロナ社会のかたち」

セッション2 新型コロナウイルス対策を踏まえた社会経済の変革

**コロナとともに生きるために、
我々は何を準備すればいいのか**

**京都大学 公共政策大学院
岩下 直行**

1. 2020年の世界経済は未曾有の落ち込み



(資料) OECD Economic Outlook、2020年6月10日

2. 感染拡大を防ぐための行動変容が必要

- 当面は、特效薬もワクチンの開発も期待できない。
- コロナとともに生きる時代（ウィズ・コロナ）をどう乗り切るか。
- 感染防止に努めながら、経済成長できる社会を実現するために、ひとりひとりの行動変容が必要。
- そのためにはICTの最大限の活用が必要不可欠。
- しかし、それだけでは足りない。



3. インターネットはコロナに間に合った

- もしも今、インターネットがなかったら…
 - コロナに対して無防備に生きるしかない。
 - 集団免疫を獲得するまで、多くの犠牲を甘受するか、経済活動をより厳しく制限するしかない。
- しかし、インターネットが間に合ったので、犠牲を回避しつつ、経済活動を続けることができる。
 - 日本は先進国の中でも通信基盤が充実。
 - リモートワークも遠隔授業も可能。



4. 日本社会の慣習が行動変容を阻害する

- 日本の社会は、インターネットで変わらなかった。
 - 対面取引、書面主義。契約書や行政文書にハンコが必要（世界で日本だけに残る慣習）。
 - 学校現場から政治まで、全員が対応可能でなければ仕組みを変えない。その結果、古い仕組みが残る。
 - ネットバンキングの利用は低率。スマホ決済の普及も世界に後れを取る。
- 社会が、ICTを最大限活用できる構造になっていない。



5. コロナが日本社会を変えつつある

- コロナ対応が、岩盤規制を変えつつある。
 - ▶ オンライン診療：緊急措置として、初診対面原則が見直され、遠隔での初診、服薬指導が可能に。
 - ▶ ハンコ廃止：民間対民間の契約事務は電子契約サービスに移行。行政文書への押印についても可能なものから順次廃止に。
- 2019年までは20世紀の延長戦。2020年から21世紀が始まった。僅か3か月で10年分の変化が。



6. 我々は何を準備すればいいのか

- コロナの第二波への備えは、一刻を争う。
 - 「決められない日本」に将来はない。
 - 「徐々に合意形成する」という考え方自体を見直す。
 - 必要に迫られれば、慣行は変えられるという認識が共有される必要がある。
- 慣行が変わればICTも変わっていく。
 - 企業内、業界内に閉じたネットワークから、誰でも、誰とでも繋がれるネットワークに。
 - 情報セキュリティの考え方も根本から見直す必要。
 - 本当のデジタル化が進めば、新しい成長が可能に。